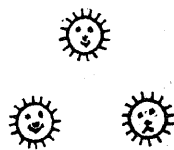


畑の豆(童話)



あつ　よ　う　こ

ジロウサン

ボクワ　ハタケノ　ソラマメ　デス　ドウカ　ボクノト
コエ　アソビニ　キテクダサイ、

イツカ　ジロウサンガ　幼稚園デ　レンゲツミニ　イラ
シッタ　トキニワ　マダボクモ　ハナバカリ　デキタテノ
小イマメワ　オトナノユビダト　ヲシツブサレル　ホド
ヤワラカデシタ　ケレド　イマワ　モウ　スツカリ大キク
ナリマシタ　マメノ　ヘヤモ　ヒロクナツテ　ヤワラカイ
フトン　モ　シイテアリマス　ジロウサン　オトモダチヲ
ツレテ　ドウゾアソビニキテクダサイ

ハタケノ　ソラマメタロウ

こんな手紙が、つい此間次郎さんの處へ來ました、

ハナコサン

ワタクシワ　ハタケノエンドウ　デゴザイマス　イマハ
タケデ　イチバン　トラクノミエル　ミハラシノ　ヨイノ
ワ　ワタクシノウチデス　ホソイツルヲ　ノボツテイケバ
オトナリノ　ジャガイモサン　ムカウノムギサン　ネギボ
ウズサン　タチ　ヲ　ミオロスヨウナ　タカイトコロエ
イカレマス　ワタクシノツル　ワ　ホソクテヤワラカイ
カラ　スベリオチナイ　ヨウニ　キテツケテクダサイ
ハナコサン　オトモダチヲ　サソツテ　ドウカアソビニ
キテクダサイ

ハタケノ　エンドウ　マメコ

次郎さんミ花子さんは　お母様にこの手紙をお目にか
けました。

ハナコ「ネ、オカアサマ　イッテモ　イイ？」

ジロウ「ボク イッテミタイナ、ソラマメノウチノ オフ
トン ナンテ ミタコト ナインダモノ」

「まあ、いゝお手紙、それじゃ 次郎さんも花子さんも
今度の日曜にお父様まで行てらつしやいな」このお返事に二
人は

「ア、イイノ、ウレシイナ」

そして待ちに待つた日曜日の朝早くお母様に作っていただ
いたお辨當を持って次郎さん、花子さんは ニコニコ顔でお
父様まで省線に乗って田舎へ行きました。

花子さんはお父様にをしへて頂いて エンドウの畑へ、
次郎さんは ソラマメ の畑へ行てみました、畑の土はそ
れはく柔かでチヨコレートの様な色をしてりました。

ソラマメ「マア ジロウサン ヨクキテクダサイマシタ
サアドウゾオアガリクダサイ」ソラマメの出した黒いスリ
バをはくミ 次郎の身體はみるくうちに豆人形の様に小
さくなりました びっくりしてゐる次郎さんを

ソラ豆「ビツクリスルコトワ アリマセン ソレデナイト
ボクノウチ エワ ハイレナイノデス アトデ マタナオ

リマス カラ シンバイシナイデ ドウゾコチラニ」ミ云
はれるまゝに次郎は豆のお家へ上つて行きました、すつミ
上の方には まだ花が少し咲いてゐました、藤の花に似て
るますけき 色も違てゐるし あんなに いゝ香ニひもあり
ませんでした 莖がざら／＼してゐるのに葉はスベ／＼し
て ミても軟かでした、葉の裏の方で鼠色をしたアブラ蟲
の運動會がありました 面白いのでみてゐますミ急に皆が
逃げ出しました。

次郎「ドウシタノ」ミ豆にきいたら

豆「ジロウサンチ テントウムシノ コドモトマチガエタ
ンデシヨ、テントウムシソコドモワ イツデモ アブラム
シチ イヂメルノデス」ミ云ひました、豆のお家は土に近い
下の方ほど大きくて、中には入つてゐる豆もよく肥てゐま
した、たゞお室の中の ふさんは小さい豆の方が厚くて軟か
でした、ソラマメの葉は厚くて澤山ありますそしてやつぱ
り軟かです、ごここでお祭りの笛のような面白い音が聞ゑ
ましたから何かミ思てきたら田舎の子供が自分で作て吹
いてゐる 麥笛ミいふのだ ミ豆をしへてくれました、

僕がもうお父様の處へ歸るに云たら ソラマメのさやで作
たボートの玩具をおみやげに云てくれました、だんく
下へをりて黒いスリッパを脱いだら僕は又もこの大きさの身
體になりました、花ちゃんも「兄サン」に云て丁度僕の方へ
來る處でした、豌豆の方は花ちゃんが行たのだから花ちゃ
んに話してもらひませう。

花子「エンドウは畑中で眺のいゝお家だに云ふんでしょ、
みんなに高いのかと思つたら花子の丈位しかないの、唯エ
ンドウのツルが擱つてゐる竹の棒はお父様の丈ぐらひ高か
つたワ それでも豆の云ふ通りツルに昇てみるに次郎さん
の行たソラ豆だつて、それからお隣のじやがいもだつてず
つにエンドウより低いのよ エンドウの莖はするぶん細く

やせてゐてかたいの誰かが折ろうにしてもなかく折れな
いんですつて、お向ふの麥畑には緑色のひげだらけのやう
な顔をしたのが澤山ならんでゐたワ、豆へ昇る時花子は赤
いスリッパをはいたの、するに花子の身體がこてもく小
さくなつてしまつて蟻と同じ位になりました、そして細い
莖をスル／＼昇て行くに白いのやぼたん色のやきれいな豆

の花が咲いてゐました「アアラ スキートピーじやないか
しら」て云たらエンドウが「ハナコサン スキートピーチ
ゴズンジデスカ、アレワ ワタクシノ シンルイデス」て
云ふんでしょ私あの花大好きつて云たらエンドウは喜んで
りましたよ、エンドウ豆のお室はこても明いの細長い室で
壁はみんなうす縁、それで中のお豆は學校の生徒が體操す
る時のように行儀よく竝んでました、豆が大きくなつて肥る
ミ壁もやつぱし大きくなるんですつて、もつに大きくなる
ミ壁（壁のやうなものゝ事をほんごうはサヤに云ふんです
つて）の色が變てしまふんですつて。私がもう歸るつて云
たら、色の變たサヤの中から大きくなつたお豆だけこんな
に澤山ポケットに入れて下さつたの。

ミ、花ちゃんがポケットから出した豆を見るまいつも母
様がハムライスに入れて下さるグリーンピースと同じでし
た、お父様も

「ホウ、これは上等なグリーンピースだね」におつしやいま
した。（終）

これは幼児が讀める處を自分でよみ、あとは大人から聞く話、